

年 頭 所 感

一般社団法人京都府タクシー協会

会 長 筒 井 基 好

新年あけましておめでとうございます。令和5年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

4月以降、政府による行動制限も無く、10月の水際対策の大幅な緩和に加え、全国旅行支援が実施され、コロナ禍以前の活況を感じるものの第8波の予断を許さない状況下にあります。また、「オール京都」の理念のもと感染予防対策を徹底し、多様な利用者ニーズに親切・丁寧な輸送サービスに引き続きする必要があります。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響から、まもなく3年が経過するなど、感染拡大が想定より長く続き新たな生活様式に加え、乗務員不足や燃料価格高騰など、タクシー業界は極めて厳しい状況下におかれ、いかに100年以上の歴史ある産業とはいえ、生き残るには間違いなく難しい環境にあります。

そのため、新執行部発足後、8月には公定幅運賃変更要請を提出したところ、最終的な要請率が80.99%と各社の冷静な経営判断に対し、改めまして感謝を申し上げます。今後は、近畿運輸局の審査の進捗状況を注視しつつ、得られた原資を担保にタクシーそのものをアップデートし、

さらに便利な交通モードにしていくことが急務で、そうすることが魅力あるタクシー産業の創出となり、この未曾有の3年間、必死に頑張ってくれた乗務員の自信と誇りを持った活躍に繋がるのではないかと確信いたします。

今回の運賃改定を契機に、現状のウイズコロナとこの先のアフターコロナを考えると、業界全体で協力していくことが重要になります。加えて、近い将来ふたたび必ずライドシェアが議論されますので、脅威が規制されている今のうちに、業界が着実に進化していけば、仮に規制が緩和されてもその時点で負けない存在になっているのではないかと思います。今一度足元の各社の戦略を冷静に評価し、「オール京都」の理念のもとに相互扶助やお互い様の精神を発揮し、新技術や新しい概念にも果敢に挑戦し、タクシーそのものを変革していくことが重要ではないかと考えています。我々業界には、不易流行の文化がありますので、議論を積み重ねてまいりたいと思います。

さらに重要なことは、我々業界の実情をつぶさに理解いただく必要があります。円安や燃料価格高騰等による電気・ガス料金をはじめ生活必需品の値上げが繰り返されるなか、利用者にタクシーの運賃改定の必要性をご理解いただくためにも、京都市域交通圏タクシー準特定地域協議会や民間公聴会での丁寧な説明に加え、利用者利便に資する運賃のあり方など、自由闊達な議論を未来創造会議でキックオフしたところです。今回の運賃改定での実施は未定ですが、未来の京都らしいタクシ

一運賃のあり方に繋がればと思っているところです。

一方、京都のタクシー業界の足元では、乗務員不足が深刻な状況にあります。乗務員登録が開始された直後の運転者証交付数は11,217人でしたが、昨年11月末の府下全域は6,595人と4,622人減少いたしました。少子高齢化の進展は年々緩やかに乗務員の減少を招きましたが、コロナ禍で高齢乗務員等を中心に離職が加速するなど、この3年あまりで1,863人減少いたしました。

そのため、求職者に運転者への就職を促進し、人材確保の取り組みを後押しすることを目的とした「働きやすい職場認証制度」への申請に加え、働き方改革関連法の本格的な適用の対応が求められます。タクシー業界におきましては、2024年4月1日から乗務員の時間外労働の上限を年960時間以内にしなければなりません。さらに現在、中小企業に適用が猶予されている月60時間を超える時間外労働に対する割増賃金率は、2023年4月1日から、50%になりますので、苦しい状況にあっても他産業と同じく、導入かつ実践していかないことには、他産業ばかりに人は流れますので、時代遅れにならないよう切磋琢磨しながら、時間外労働の削減に取り組む必要があります。

なによりも先の運賃改定により乗務員の皆さんの労働条件の改善について早急にかつスムーズに反映できるよう速やかな移行を実現します。ここまで支えてくれた乗務員、管理職の皆のためにも、またこれからタクシ

一を支える人材のためにも、他産業に負けない賃金確保を業界全体として目指さなければなりません。

このほか、IOTシステムの急速な進展にともない、新たな技術を駆使したMaaS(Mobility as a Service)・DX(Digital Transformation)や自動運転技術の対応、事業活性化のための取り組み、さらにユニバーサルデザインタクシーをはじめ乗合タクシーなど、様々なサービスメニューに加え、コロナ禍で最大のダメージを受けたフォーリンフレンドリータクシーは、喫緊の対応が求められるところです。

タクシー業界も積極果敢にチャレンジし、時代の変化に応じた柔軟な姿勢が求められています。姿勢如何によっては、存在意義と真価が問われる極めて厳しい一年になるものと考えています。

こうした厳しい環境に挑むためには、地域に密着した府下の自治体との連携強化が必要になります。できる限り多くの自治体と会話を重ね、地域公共交通会議に積極的に参画し、信頼を構築していく努力を積み重ねてまいりました。こうした背景から、あらゆる自治体から燃料価格高騰等に対する地方創生臨時交付金を活用したご支援を賜りましたこと、改めてお礼を申し上げます。

引き続き、地域によってはタクシーの手薄な地域もありますので、実情をつぶさに把握し、「タクシーに出来ることはタクシーが」を前提としつつ、議論を重ねることが重要になりますので、自治体との連携強化を図るた

め、積極的に行動してまいります。

コロナ禍で厳しい環境ですが、苦しい今だからこそ、アイデアを寄せ合い各社が互いに協力して、常に未来志向で、課せられた重大な使命であります安全・安心を大前提に、府下のあらゆる地域で生き活きと躍動するタクシーが、利用者から信頼され、必要と認識されるよう、法人・個人、各社の垣根を越えて、まさに「オール京都」の理念を合言葉に、創意工夫にあふれた取り組みを行ってまいります。

会員の皆様におかれましては、どなたでもご意見や諫言を賜り、京都のタクシー事業の安定と業界の活性化に向け、お力を貸していただきたいと存じます。

本年が皆様方にとり、希望に満ち・充実した一年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上